



平成 30 年 2 月 13 日

各 位

本社所在地 東京都新宿区北新宿二丁目 21 番 1 号
会社名 RIZAP グループ 株式会社
代表者 代表取締役社長 瀬戸 健
コード番号 2928 札幌証券取引所アンビシャス
問合せ先 取締役 香西 哲雄
電話番号 03-5337-1337
U R L <https://www.rizapgroup.com/>

SD エンターテイメント株式会社の業績予想の修正に関するお知らせ

当社子会社であるSDエンターテイメント株式会社は、本日、「業績予想の修正及び配当予想の修正に関するお知らせ」を開示いたしましたので、別紙のとおりお知らせいたします。

以 上



平成 30 年 2 月 13 日

各 位

会 社 名 SDエンターテイメント株式会社
 代 表 者 名 代表取締役社長 吉住 実
 (JASDAQ コード 4650)
 問 合 せ 先 管 理 本 部 長 荒井 隆夫
 電 話 番 号 011-241-3951
 U R L <http://www.sugai-dinos.jp/>

業績予想の修正及び配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、本日発表の平成 30 年 3 月期第 3 四半期決算短信の結果、並びに最近の業績動向を踏まえ、平成 29 年 5 月 15 日に公表しました平成 30 年 3 月期(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)の通期業績予想及び配当予想を、下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

平成 30 年 3 月期連結業績予想数値の修正(平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	8,600	450	300	200	22.77
今回発表予想(B)	8,050	70	0	20	2.23
増減額(B-A)	△550	△380	△300	△180	
増減率(%)	△6.4	△84.4	△100.0	△90.0	
(ご参考)前期実績 (平成 29 年 3 月期)	7,731	188	52	20	2.31

2. 修正理由

当社は、札幌市の大型複合アミューズメント施設における大型ゲーム場退店跡にフィットネス道内初出店並びに複合カフェ併設とテナント入替を実施するという大規模な業態転換、フィットネス事業の一部老朽化既存施設の譲渡・改修並びにプロテインバー全店導入をはじめとする成長アイテム等への設備投資、新型クレーンゲーム機の集中投資をはじめとする GAME 事業への勝ち残り戦略等の実行などの構造改革投資を積極的に実施するとともに、子会社においては企業主導型保育の開設等の先行投資を実施いたしました。

当期は、将来の持続的な収益拡大を目論んだ構造改革等のための積極的な設備投資約9億円（大型複合アミューズメント施設の業態転換3億15百万円、同施設を除くフィットネス事業への投資1億64百万円、GAME事業への投資2億43百万円、保育事業への投資1億3百万円等）を実行し、前年同期と比べ売上高は1億87百万円増（3.3%増）、売上総利益は1億67百万円増（3.7%増）となりました。しかしながら、その投資による損益負担が重く（営業利益マイナス影響1億79百万円）実施の時期が後ろにずれ込んだことや新店スタートダッシュが当初の想定を下回ったこともあり、12月単月は黒字転換したものの、第3四半期連結累計期間までに1億22百万円の営業損失を計上しました。

その結果を受けて、下記の事業別売上傾向の通り、平成29年9月以降シネマのヒット作が乏しく、好調だった前半から一転して、シネマ事業売上の前年同月比大幅減が続き、集客効果に期待できなかった中でも、平成29年10月より3ヶ月連続で全体の売上合計が前年同月比を上回り、構造改革の投資の効果が着実に始まっております。この回復傾向は北海道を営業基盤とする当社一番の稼働期である第4四半期連結会計期間においても継続できると見込んでおり、売上拡大のための下記の第4四半期以降の営業増強施策も実施することから、一定のリカバリーは出来るものと見込んでおります。しかしながら、第3四半期連結累計期間までのマイナスを挽回出来るところまでは行かないものと判断し、通期における営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益は前回予想を大きく下回る見込みとなりました。

■事業別売上傾向

- ① GAME事業において平成29年8月より5ヶ月連続で前年同月比増（うちプライズ売上は平成29年4月から前年同月比平均136%で推移。6月よりネットキャッチャー事業再開、第3四半期連結会計期間は第2四半期連結会計期間との売上対比で164%推移）
- ② ボウリング事業において平成29年8月より5ヶ月連続で前年同月比増
- ③ フィットネス事業においては平成29年11月より2ヶ月連続で前年同月比プラスに転換
- ④ 企業主導型保育事業においては平成29年4月より9ヶ月連続前年同月比増。

■第4四半期以降の営業増強施策

- ① 札幌冬のイベント「さっぽろ雪まつり」にあわせ、同イベントのメインキャラクター「雪ミク」とコラボ。ゲームでは当社限定の雪ミク景品を、ボウリング・シネマではオリジナルマグカップをそれぞれ店舗に投入いたします。
- ② 創業99周年を記念したお得なパッケージを設定し、販売いたします。
GAME事業……メダル99千円くじの販売
フィットネス事業…99千円の加圧トレーニング年間パックの販売
ボウリング事業……99万円生涯投げ放題、99千円一年間投げ放題の販売
- ③ 各事業、無料クーポン配布や体験会を実施し、まず当社サービスを体感いただき、引き続きのご利用をいただけるような取組みを行っており、ご来場いただけるお客様の総数は増加傾向にあるので、これを継続します。

- ④ 子会社において、企業主導型保育事業の新規出店による増収を見込んでおります。
- ⑤ RIZAP グループとの人材交流を進めており、現在フィットネスとゲームをメインに業務改善を継続しております。より質の高いサービスを提供するための社内外の環境整備、組織構成を含めた仕組みの改善を、上記営業施策と平行し進めます。

3. 配当予想の修正

	年間配当金		
	第2四半期末	期末	合計
前回発表予想	—	6円70銭	6円70銭
今回修正予想	—	1円00銭	1円00銭
当期実績	0円00銭	—	—
前期実績 (平成29年3月期)	0円00銭	1円00銭	1円00銭

4. 修正理由

当社は、株主への利益還元を重要な経営課題の一つと位置づけており、機動的な利益還元と、経営財務の安定性確保の観点から、親会社に帰属する当期純利益の水準に応じた業績連動型配当の実施を基本方針とし、配当性向 10%～50% 目処とすることを基本方針とすることにしており、当期においては連結業績前回発表予想に基づいた連結配当性向 30% を目安に 6円 70 銭を予想しておりましたが、業績予想の修正に記載したとおり、親会社株主に帰属する当期純利益が 20 百万円と下回る見込みとなったため、利益に連動し、1株当たりの期末配当金を 1円 00 銭 (配当性向を約 44%) とさせていただく見込みとなりました。

(注) 上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性がありますことをご承知おき願います。

以 上